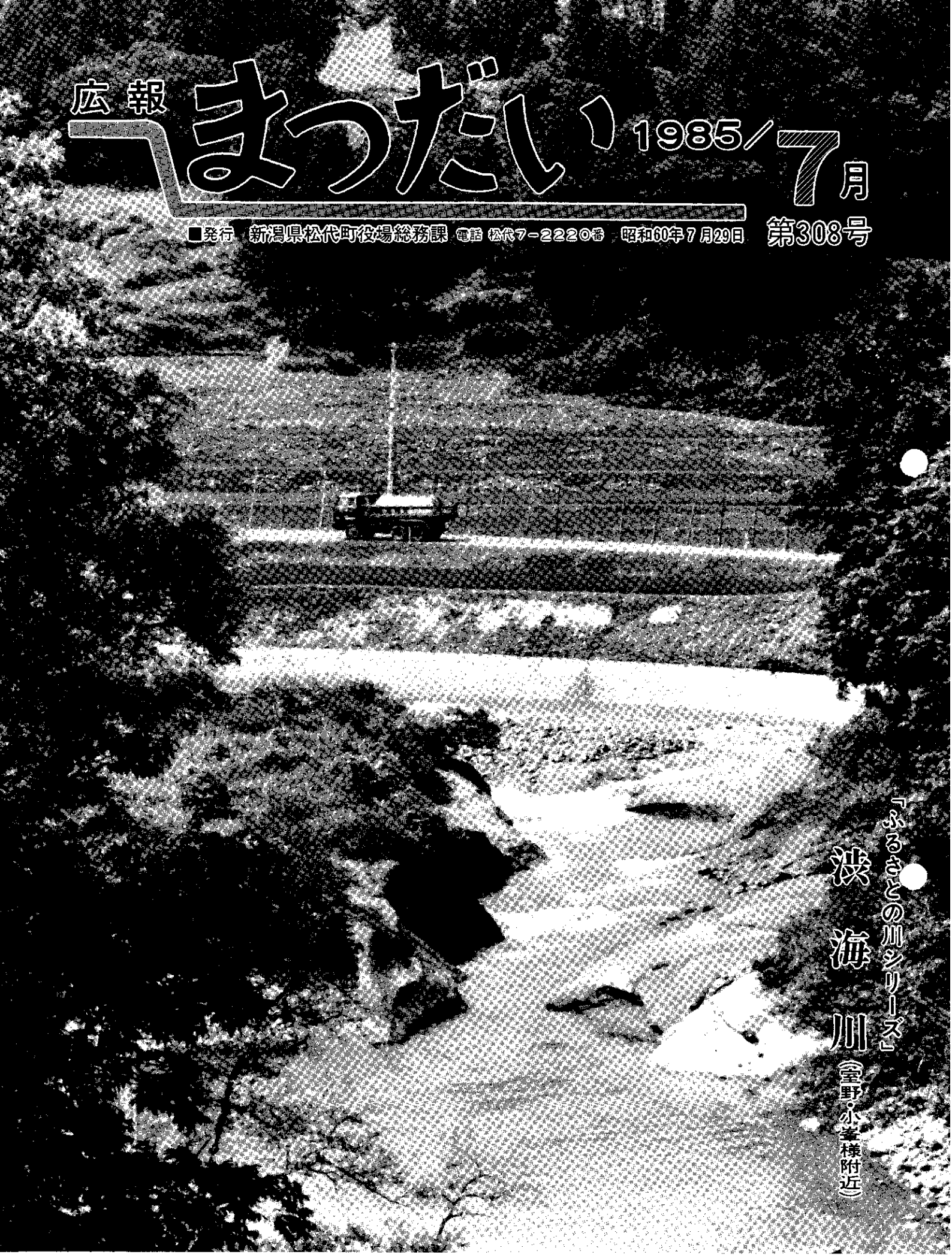
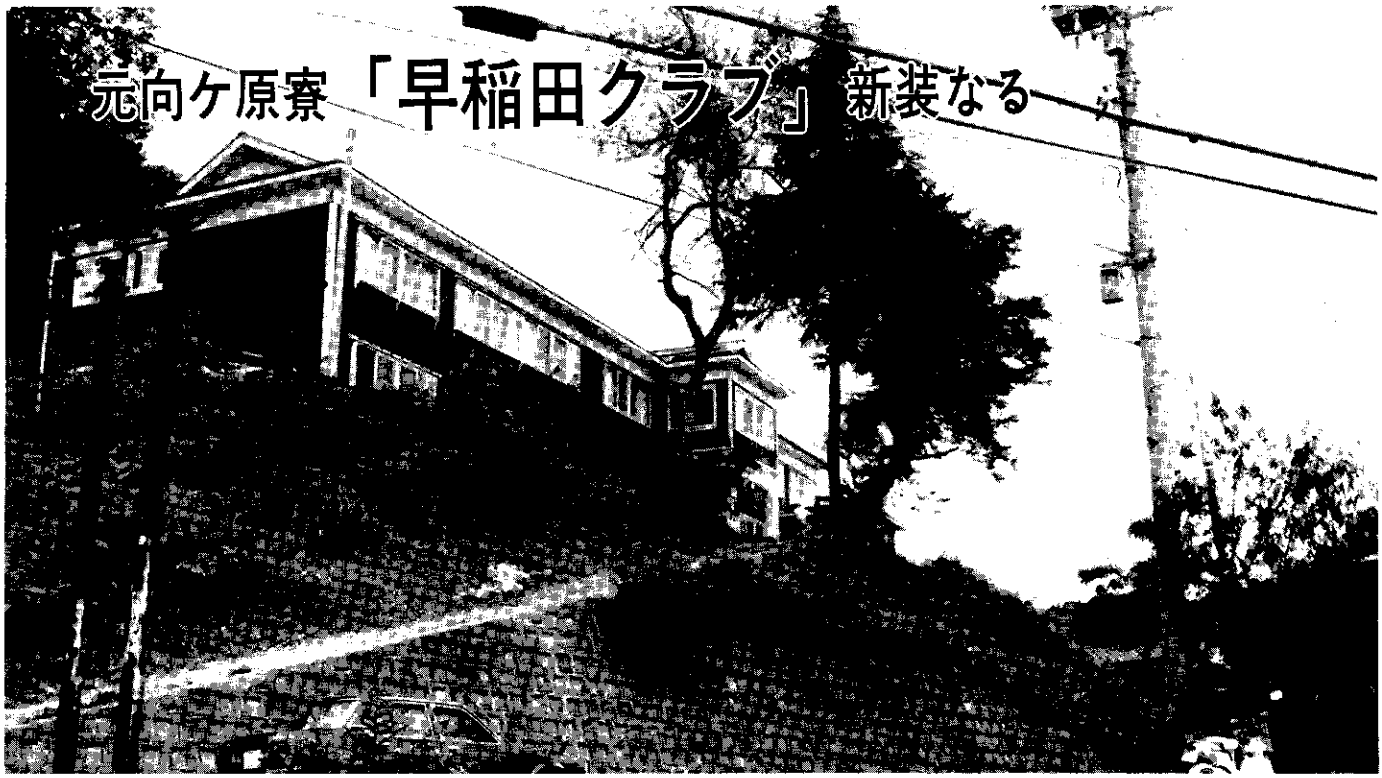
広報 まつだい 1985／7月
■発行 新潟県松代町役場総務課 電話 松代7－2220番 昭和60年7月29日 第308号



《人口の動き》 男3,033（＋1） 女3,057（－3） 計6,090（－2） 世帯数1,677（－2）
7月1日現在 出生4 死亡5 転入4 転出5

元向ケ原寮「早稲田クラブ」新装なる



県立松代高等学校前の小高いところにある「早稲田クラブ」（元向ケ原男子寮）が装いも新たになった。

藤巻幹雄さん（松代、ふじや金物店）他5名の仲間によって「早稲田クラブ」の改装工事が5月28日から、向ケ原に響きわたった。

一階は、10畳2間（和室）、大小研修室、調理室、ドーム型の風呂場などがある。二階は、10畳7間（和室）が出来ている。廊下は、ジュウタンが敷かれ、今までの面影はない。

向ケ原男子寮は、松代町が昨年、新潟県から無償で払下げを受けたものである。（敷地については有償）

藤巻さんは、こんな苦労話をされる。

自信をもって〝松代〟といえるものがほしい。

〝土中に種子を蒔いてから、10年たった。やっとここまできた〟と……。

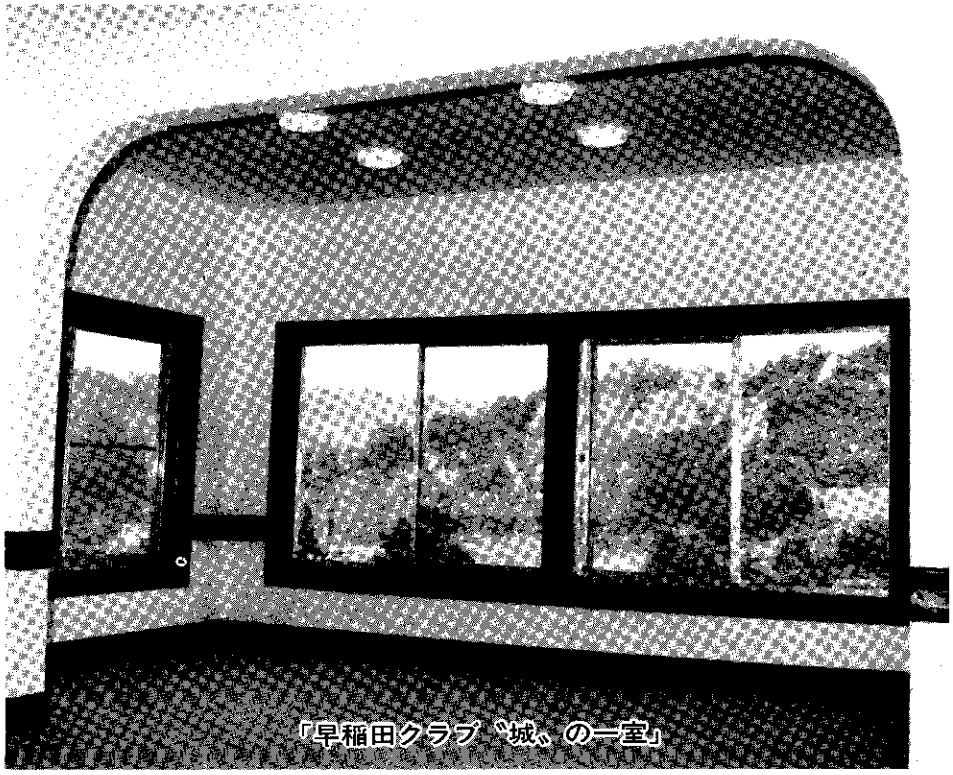
早稲田グランド（旧山平中）に大学の教授を案内した時は、葦が顔をなぜていました。最近発行の道路マップに、早稲田の校地が乗りましたと話される藤巻さんの顔は明るい。

すでに、大学の授業として、（体操）単位取得のため140人の学生が、松和寮と、早稲田クラブに宿泊した。ブナの林、すんだ青い空、人情味豊かな、この地には、きっと満足されたことと思われる。

学生の村として、他に〝ほこれる〟何かが動いている。

頑張って下さい6人の勇士!!

今年の早稲田関係の日程は次のようになっています。



「早稲田クラブ〝城〟の一室」

練習月日	利用者(団体名)	人員	練習会場
8月8日～8月11日	マンドリンクラブ	45人	松代中学校
8月9日～8月18日	バドミントン部	30人	総合体育館
8月11日～8月16日	ソフトボール同好会	37人	松代中学校
8月12日～8月18日	バスケット部	32人	〃
8月24日～8月30日	バーベルクラブ	40人	総合体育館

延人員は、1,200人ほどになる見込みです。

日本鉄道建設公団東京支社松代鉄道建設所のスタッフの皆さんを紹介します。

建設所は、ご存じのとおり役場裏の小高い所にあります。

4月10日㈬天候晴、友田孝所長以下4名の技師、2名の事務員、自動車運転員、用務員計9名の方が150cm程の残雪のなか就任された。

①出身地、②前任地 ③趣味 ④感想（松代）についてお聞きしました。

◎友田孝（所長）①北海道 ②東京本社 ③スポーツなんでも、親子でラグビーをするのが楽しい。④都会の生活より、田舎の生活が好きです。

◎伊藤慶秋（副所長）①九州 ②東京支社 ③スポーツ ④交通の便が悪い。

◎小島隆（技師）①新潟県 ②東京支社（上越新幹線）③パチンコ ④高田出身なので雪には驚きません。

◎池田和人（技師）①九州 ②東京支社（上越新幹線）③スポーツ ④商店が一緒に休むのが不便だ。

◎雨宮秀明（技師）①長野県 ②東京支社（上越新幹線）③これといった趣味はない。④赴任した時、雪が多かったので冬が心配です。

◎飯島和義（事務）①新潟県 ②東京支社 ③ハム ④町内の人達がとても親切で感謝しています。

◎富沢智子（事務）①松代町大字太平 ④人の付き合いの大変なことを実感しました。

◎鈴木洋一（自動車運転士）①松代町大字松代 ②東京支社

鈴木さんは、48年松代建設所ができてから勤務しており、職員の移動など、懐かしそうに話された。

◎市川よきい（用務員）①松代町大字松代

建設所入口附近の大豆、とうもろこし畑は、市川さんの管理であろうか、大きな実を付けている。

鍋立山トンネルは土質が悪いといわれていますが、素人にも分かるように言うと・・。

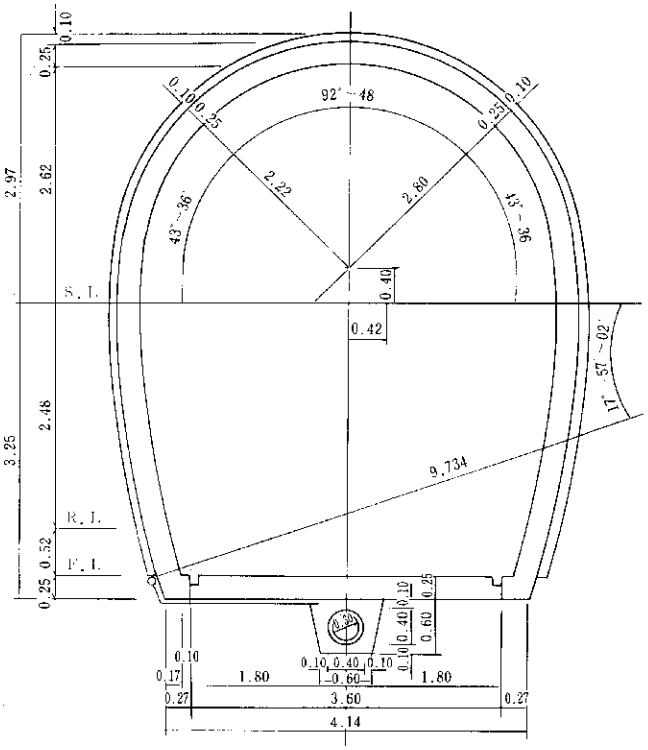
軟らかい粘土の中を掘っていくと、回りからしぼりだされるような状態になるという。可燃性のメタンガスが怖いですと、所長さんは説明してくれた。

犬伏トンネルの7月23日現在の進捗状況は99mである。

犬伏トンネルの掘削断面は、図のようになっている。断面積は約、30㎡で、畳、約19枚ほどの大きさになります。一m当りの工事費は、約100万円位かかるそうです。

来月（8月）になると工事発注増のため、2～3名の職員の増員がなされる。

犬伏ずい道断面図



健康・体力シリーズ④

健康体力づくり推進事業

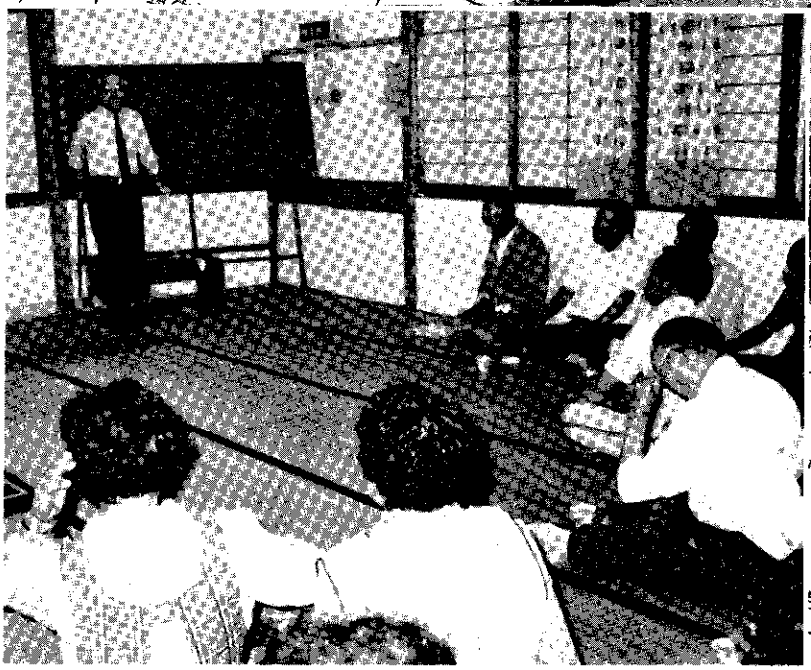
―下山・蓬平―

松代町では健康体力づくり推進連絡協議会を昭和59年度より結成し、町民の健康と体力を増し、明るい地域づくり、町づくりを目的として活動を行っています。そのモデル部落として現在、下山部落が肥満を少なくし、より健康な体力づくり、蓬平部落が貧血を克服し医療放置者をなくすことを目標として2～3カ年計画で各種の事業を年間数回にわたり実施しています。本年度の主な事業内容は心の健康などが計画されています。

この中には医学的な立場からの指導・助言として医師の講演をはじめとし、生活面の問題、心の問題等を話し合います。又、体を動かし、汗を流したり、毎回楽しいレクリエーションを行うなど盛りだくさんの内容となっており、下山・蓬平の皆さんも積極的に参加してくださっています。

年々高齢化が進み、町全体が年をとってきている現状のその中で町民一人一人がどのように毎日を健康に過ごすか、そしてどのように健康な老後を迎えるかが問題となってきます。「今がなんともないから」と安易な生活を送っていたのでは、必ずその大きな代償を払わなければならない時がくるのです。忙しさの中にも、自分の、そして家族の健康と幸せのために、もう一度今の生活をみなおしてみたいものです。

	学習のテーマ	学習内容	学習方法	指導者・助言者	時間
1	・高血圧と肥満 ・高血圧と適正医療 ・座談会 ・レクリエーション	・肥満が血圧をはじめとし、身体へ及ぼす影響について。 ・高血圧の恐ろしさと、適切な医療の必要性について。 ・講話後、今病気等で悩…	講義	医	
2	・貧血と適正医療 ・体操				
3	・体育館でのスポーツ大会				
4	・運動の効果について （ゲートボール大会）	・運…休…			
5	・調理実習	※老人…			



校	柔道士	3	8月10日（昼間）
	体育指導員		
	精神衛生相談員		
	保健婦	2	10月中旬
	宅館職員		

実力ナンバーワンか？

バンビ・チーム（蒲生）

七月七日（日）婦人の体力つくりを目的として、ミニバレーボール大会が町体育館を会場とし、十八チームが参加し、ずいしょに、好プレー、珍プレーが続出し、婦人パワーと歓声が会場にあふれ、最後まで熱戦が繰り広げられました。

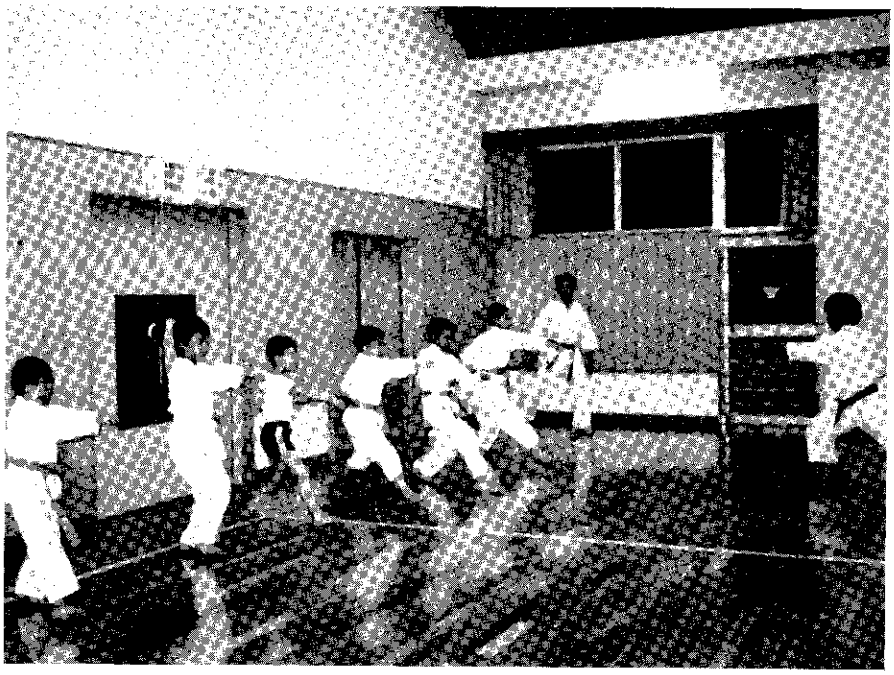
一位　バンビチーム（蒲生）
二位　聖子チーム（田野倉）

ガンバレ・チビッコ

空手教室より!!

午後五時半頃、空手着を身につけ、三～四人で体育館へくる。午後七時、柔剣道場のドアを開けると同時に「オッス」という言葉で入る。あとは指導者の掛声により、練習が始まる。

会員は主に小学生が中心で、動作もまだあどけない。会員の中には水色の帯（六級・七級）をしめている人九人、将来の国体選手を目指してガンバレ！



ふんばり力をつけるのに役立つ宙返り

むずかしそうにみえますが、子どもは一度覚えると「もう一度、もう一度」とせがむくらい楽しい体操です。

両手をとり、膝に足をかけさせて、太もも、おなかとよじのぼらせます。おなかまできたら、お母さんは握った手を持ち上げ、心もち内側に向けてやります。そうすると、子どもはくるりとまわります。

お母さんにも体力、とくに腕の力が要求されますから、2～3歳の子ども向きといえるでしょう。

第一回中学生リーダー・サバイバルトレーニング開催される

ヤッタァ！
三時間かかって火が起きた。火のこをたやさないように！

去る6月22・23日、松代城山キャンプ場において「第一回中学生リーダー・サバイバルトレーニング」が行われた。この日の参加者は、中学生30名、スタッフ2名の計32名であった。

今回のリーダートレーニングは、「中学生リーダー育成講座」として5月25日、6月1日の二回にわたり、「レクリエーション・コミュニケーション・グループワーク・救急法、歌、ゲームの指導法、サバイバルの基礎知識」などを研修した。そして最後に実習として「サバイバルトレーニング」を行ったものである。

このトレーニングの目的は、「創造することを学ぶ」であった。そのため条件として、

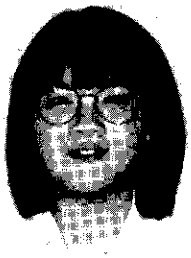
①自力で火を起す。
②ご飯はハンゴウ以外のもので炊く。
③電灯を使わない。

以上を守って各班ごとに多彩な小道具などを考案してきたようであった。

他人から言われないと何もできない子供達が多くなりつつある現在において、「自分で何かをする」ことが如何に大切なものであるかを考えさせるトレーニングであった。

中学生トレーニングに参加して

樋口文子



6月22、23日、中学生トレーニングに参加しました。

今回は「サバイバル」という原始生活を体験するということで、課題は「ライター・マッチは使わず、ハンゴウも使わず、電灯も使わない」というものでした。ライター・マッチのかわりに自分達で火を起したり、ハンゴウのかわりに鍋を利用したり、電灯のかわりにランプを作ったりしました。

火を起す時は木を使い、色々な方法で起しました。木と木をこすり合わせたり、ヒモを使う〝ヒモギリ式〟、弓を使う〝ユミギリ式〟などをやりました。一番早く起きたものは、木と木をこすり合わせたものでした。

ご飯を炊く時は、普通の鍋を使い、ハンゴウを使って炊く時と同じ要領でやりました。お湯が沸騰しているかどうか木の先を鍋のふたのところにあてたり、まだ鍋の中に水があるかどうか調べたりして炊きました。また鍋のこげたものは、泥をつけて草でこするときれいになるということがわかりました。

ランプはインスタントコーヒーなどの空びんを利用して作り、ローソクに火をつけ、それを電灯のかわりにしました。

スタッフがやった実験で、ボール紙でいれ物を作り、お湯を沸かし、その中でラーメンが作れるか？というのがあり、ボール紙のいれ物でラーメンをつくることができました。

このリーダートレーニングによって、「自然を利用すれば何でもやれる」ということを知りました。今は何でも不自由なく生活できる時代です。そんな中原始生活を体験するということは難しいことです。このリーダートレーニングで学んだことを今後の自分の生活に役立ててていこうと思います。

少年団体リーダー交換研修会開催される

去る7月6日～7日、青少年育成町民会議主催の少年団体リーダー交換研修会が行われました。

当初、松之山大厳寺高原で行う予定でしたが、連日の雨で会場が変更になり、松代町総合体育館一階ピロティーで開催されました。

派遣社教主事の中沢先生や職員の皆さんの指導によるテントの設営、飯ごう炊飯を研修しました。また今回は、中学生リーダー7名がカウンセラーとして大変良い働きをしてくれました。最初は中学生リーダーにとまどいを隠しきれない様子でしたが、時間がたつにつれ、すっかり打ちとけてゲームなどを楽しみました。夜はキャンドルサービスで実際のファイヤーを想定してプログラムを行うなど、思い出深い研修会となったことでしょう。

社会を明るくする運動について

犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について国民の理解を深め犯罪のない住みよい社会を築こうとする目的で「社会を明るくする運動」が毎年七月を強調月間として全国一斉に展開されています。この運動は昭和二十六年法務省の主唱で発足以来今年で三十五回を迎えました。今年の重点目標は「地域活動の推進による少年の非行防止と更生の援助」と決まり、各地で色々な催しが行われています。

近年増加の一途をたどって居た青少年の非行はこのところ数的には横ばいの傾向にあるとのことですが、内容的には非行の低年齢化、複雑多様化等その動向は耳目をおどろかすものが、多発して居ます。幸い現在では当地区は他にくらべ非行犯罪は少ないとは言え、今後どのような方向へ向うか予断を許さないと思います。又明るみに出ない潜在的な非行も既に私達の耳に入る状態です。こうした状況に対処し、又非行に陥った青少年の立ち直りを助けるには、地域住民の皆さん一人一人の理解と協力による幅広い地域活動を展開していただかねば、実積をあげることはできません。月間中には各地で色々な行事も計画されて居ます。そのような行事には進んでご参加下さるようおねがいします。

尚この運動は強調月間だけで終らせず、年間を通じ国民一人一人が自らの問題として犯罪非行予防にとりくむことにより家庭から近隣へ又地域へと幅広い活動が展開され、本当に犯罪非行のない明るい社会が築きあげられて行くものと思います。非行を防ぐと共に非行に陥ってしまった人達をただにくみ嫌うだけでなく、その人達の立ち直り更生を助ける為に地域皆さん方のご協力切におねがいします。

防ごう非行　助けよう　立ち直り

東頸城地区保護司会長　佐藤秀雄

明るい村づくり、家庭づくりをめざして

太平友の会　会長　相沢幸一

太平友の会が誕生して今年で十一年目になります。まず太平友の会の誕生した経過を紹介することにします。

最近はどこの部落でも若い人が少なく部落に活気を与えてくれる青年会などが自然のうちになくなっていく様に思います。

大平部落もこの例外ではなく、盆踊り等による部落民が一同に集まり、一緒に踊り、歌い、話し合う場が皆無の状態で部落民の団結や協力性が非常に薄くなりつつありました。家が少し離れていれば年に数える程度の対話しか出来ない人も多くあった様です。

そこでこの様な状態ではより良い村づくり、家庭づくりが出来ないと感じた数名の方が発起人となり今の太平友の会が誕生した訳です。ですから部落の中から盛り上がって出来た団体ですので友の会の運営、行事等は一切部落民だけで行っています。

次に今まで友の会が行って来た行事等を紹介してみます。

第一に部落内町道を部落民のいこいの場として日曜日の第一と第三に町に陳情し開放してもらった事です。この事によって子供達は車の心配なく大いに遊び運動するようになり、大人の人達もそこに家族で集まり一緒に運動したり話をする事が出来非常に喜こんだものです。この開放道路は五十六年に太平広場を造っていただいた時に元の部落町道となりました。

第二は盆踊りの復活です。当初は広場が無かったためミツ友シルク工場の空地をお借りして行っていました。この事は部落の人達が全員で集まって行うのでコミニケーションの場として大変成果がありました。

第三は運動会を部落独自で実施した事です。この行事も当初は広場が無いため道路でやったり、高校のグラウンドをお借りして、行っていました。この行事も部落民全員で汗を流し、笑い、一致協力してやるので非常に会員間の結びつきが強くなったように思います。この運動会は十年間実施しましたが、子供会の人数の減少や町のスポーツ行事などと重なるため、そちらの方に参加しようという事になり一時休む事になっています。

このスポーツ行事の他にはスキー大会などもありこれは五十二年から八年続き運動会と同様

最近は町の大会や室野のスキー大会などに参加し今では大会は休んでいます。

第四には朝のラジオ体操を五十三年から実施している事です。この事は部落民の一日の活動の準備運動として又健康づくりの一環として役立った行事です。この行事は今年で八年目になりますがこれは将来も続けて行く計画でいます。

第四には部落民の教養の場として講演会（勉強会）を実施した事です。「地域社会の望ましいあり方について」清水小の校長先生より「町の歴史について」町職員より「町政について」町長より部落に来ていただきご講演いただきました。今年は「家庭教育と地域社会のあり方について」松代小学校の校長先生よりご講演いただく事になっています。

以上五つ程の友の会の行事を紹介しましたが、他にも今までには数多くの行事をやってきましたが、友の会の会員の皆さんの団結、会員同士の信頼感が出来た事はこのような行事のおかげではないかと感じます。

これからもよりよい村づくりと明るい家庭づくりをめざして友の会の運営、行事を行って行きたいと思っています。

健康で明るい子どもにしたかったら、幼いうちから親子で遊ぶ習慣をつけること。

子どもの体力、運動能力を決定するのは幼児期の運動です。幼児期に遊びを知らなかった子どもは体力もありませんし、運動能力がないばかりか、スポーツ嫌いのおとなになることが多いようです。

健康で明るい元気な子どもにしたかったら思いっきり遊ばせることです。とはいっても幼いうちは一人遊びよりもお母さん、お父さんとの遊びを好みます。一緒に遊んであげましょう。子どもと遊ぶことは、親のほうにも思いのほか体力が要求されますから、運動不足の解消になります。

子どもの好きな〝馬〟は足、腰、背をきたえますし、〝シーソー〟は柔軟性を回復するのに格好の遊びです。

子どもと遊ぶことは、身近に子どもの発育状況を観察することにもなります。ついこの間までは感じなかったのに、急に子どもの体重が負担に思えたり、鉄棒にぶらさがれるようになった、ブランコがこげるようになった……どれもこれもよい思い出になるはずです。

非行 何が彼らをそうさせるか ⑭

中学生をお持ちのご両親へ

登校拒否その①〝優等生息切れ型〟

学校へは行かなければならないと分かっているのだが、どうしても行けない――これが登校拒否です。この点が、行きたくなくて行かない、いわゆる〝ずる休み〟と根本的に異なるところです。学校に行かないということでは同じですが、その背景はまるで違うということ、この〝診断〟を誤らないようにすることが大切です。子供自身は〝行かなければ……〟と、もんもんとしているのです。こんな状態の子供に「なぜ、学校に行けないの？どうすれば行けるの？」と責め続けていると、子供によっては〝逃げ場〟を失って暴力を振るったり、非行に逃げこむことがあります。

■２つある登校拒否の型

登校拒否には、大きく分けて２つのタイプがあります。１つは急性型――神経症的傾向の強い〝優等生息切れ型〟と呼べるもの。もう１つは慢性型で、幼稚園あるいは小学校時代から尾をひく、依存・甘えの傾向の強いもの。

急性型の登校拒否に陥る子供には、次のような２つの特徴が見られます。まず、第１次反抗期がないこと。４～６歳になると自我が強くなってきて、なんでも自分でやってみたくなります。このころ、どの子にもそれなりに見られるであろう反抗的な行動がなく、親からみれば、素直でいい子、手間ヒマかからなかった子供です。

２つめの特徴は、小学３年～５年生のいわゆるギャング・エイジの時代に、挫折経験を味わったことがないこと。この時期の子供たちは、仲間が集まって群れをなして遊ぶことが多くなります。集団意識が強く、親の言うことより仲間との約束を優先したりします。この時期、子供たちは、友達との交わりの中で失敗したり、悩んだり、挫折経験を繰り返しながら成長していくのが普通です。ところが、中学生になって急性の登校拒否を起こす子供には、この時期の挫折経験がないことが目につきます。失敗しそうなことには最初から手を出さない、親の言うことには素直に従う、いわゆるいい子です。母親は、どちらかというと過干渉のタイプが多いようです。

■気持ちをやわらげてやることが立ち直りの第１歩

中学校は、小学校に比べてより広い地域から生徒が集まります。それまで成績のよかった子も、努力はしているのだが思いどおりに成績が伸びなくなったりします。そうすると、焦りが高じて、生まれて初めての挫折を経験することになります。ゴムが伸びるだけ伸びきってしまった状態――挫折を乗り越えるだけの性格的な強さもなく、いちばん安全である家にとじこもっていきます。これが登校拒否の状態です。

登校拒否は昭和40年代になって初めて見られるようになったもので、それまでは言葉すらありませんでした。

非行が公共のルールや規範を破るなど、反社会的であるのに対し、登校拒否は自分の周囲の環境にうまく適応していけないという、いわば非社会的な行為であるところに特徴があります。

登校拒否の子供は、学校に絶対的な価値を置き、行かないのは悪だ――という自責の念にさいなまれていることが多く、気持ちの負担を軽くしてやることが治療・立ち直りの第１歩になります。

〔指導〕警視庁世田谷少年センター・カウンセラー岩佐壽夫

選挙運動

選挙ひとくちメモ ⑥

選挙運動の方法 その１

候補者がする選挙運動

文書によるもの

選挙事務所を表示するポスター、立札、ちょうちん。

選挙運動用自動車に使用するポスター、立札、看板。

個人演説会場でのポスター、ちょうちん、看板

選挙運動用ポスター（町議選、町長選は五〇〇枚まで）

選挙運動用ハガキ（町議選八〇〇枚、町長選二、五〇〇枚まで）

新聞広告

言論によるもの

個人演説会

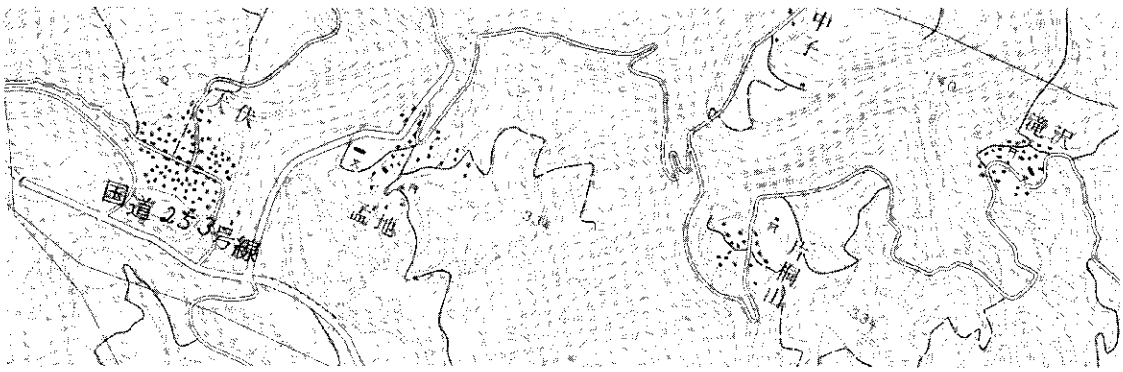
街頭演説

連呼行為

個々面接

電話による選挙運動

部落紹介シリーズ㉗
片桐山部落紹介（紹介者　山岸　丈孔氏）



まず、神社及び当部落が歩んできた経過について、書いてみます。

諏訪神社、十二神社合祀再建棟札によると、明治三十三年五月八日庚子旧四月十日遷官と記されてある。神社の内部の両側には、地域の方々の目作の俳句が額の中に飾られている。

其の時代より祭禮は九月の秋分の日と決められ、子供の頃は一番の楽しみであった事が思い出される。最近は稲刈りも早くなり変更されました。

当時の茅葺屋根は腐り、雨もりもする様になったので、昭和四十六年に屋根だけを取り替え現在に至っています。

明治三十年当時は、十八軒と棟札に書かれている。昭和二十七年頃までは十五軒であったが、どこの部落も同じ事で過疎が始まり、現在では八軒となったが、昔も、今も団結して部落の発展に努力しています。

ここでちょっと紹介してみたい事がある。当部落は妻有言葉だと言われている様に、昔から生活道路の関係もあり、魚沼方面からの縁談が多くあったよう

（昭和30年頃の片桐山部落）

11ページへ

10ページより

である。今、部落で一番の老夫婦の方に聞いてみると、昭和十八年四月十二日、中魚沼郡樽沢部落より当部落に嫁に来たとの事。春とはいえ、今みたいに除雪する訳でもない雪道を約二里（八キロ）近い距離を下駄ばきで来たという話に驚かされた。当時の事だから、神社の近くまで、「スッペ」か「ウソカケ」又は長靴をはいてきて、神社で下駄にはきかえたものだと思っていたのだが・・。話によると、両親が嫁だから着物に下駄だと言って無理やりにはかせたとか。道中泣きながら来たとの事。又、当時は嫁を向えに、近向（ちかむか）いと言って、両家打合せの場所で若衆が酒を飲みかわし、ホロ酔い気嫌で嫁と一緒に来た事も今でも記憶に残っている。

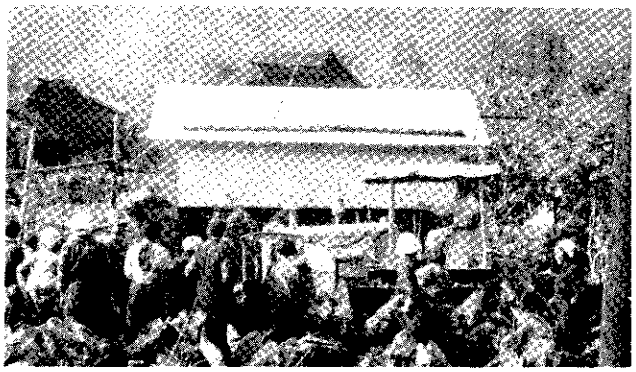
飯山線が着工し十日町に駅ができるという事で、十日町まで荷車だけでも通る道路を改良しようと部落の総意で決定し、大正九年に着工、昭和七年まで十一年の歳月をかけて竣工となった。今でもその苦労の印として、神社境内に〝開通記念〟と刻み込まれた大きな石が残っています。先輩の方々に感謝しなければならない。

昭和七年、この頃初めて自動車が入ったと言われている。神社の石燈籠を寄付された方が、十日町の石屋さんより積んで入ったとの事です。

終戦後、村役場本村に通ずる「行財政道路」が必要だという事で、孟地・滝沢間を林道として改良したが自動車が通る道ではなかった。まもなくして、孟地・荒瀬線として再度改良が始まり、この時初めて役場のブルドーザーが入ってきて村民を驚かせた。この時、一層部落民の道路熱が高まった。昭和四十三年、滝沢部落まで完成、この頃神社の大欅が切られた。

時代の進歩は〝光陰矢の如し〟で無雪道路の時代になり又、路線の変更ともなった。天王橋、中子・片桐山間の着工、現在、両端及び中央の橋脚ができていて、来年六十一年度には、全長八十九メートルという橋が完成する運びとなっている。

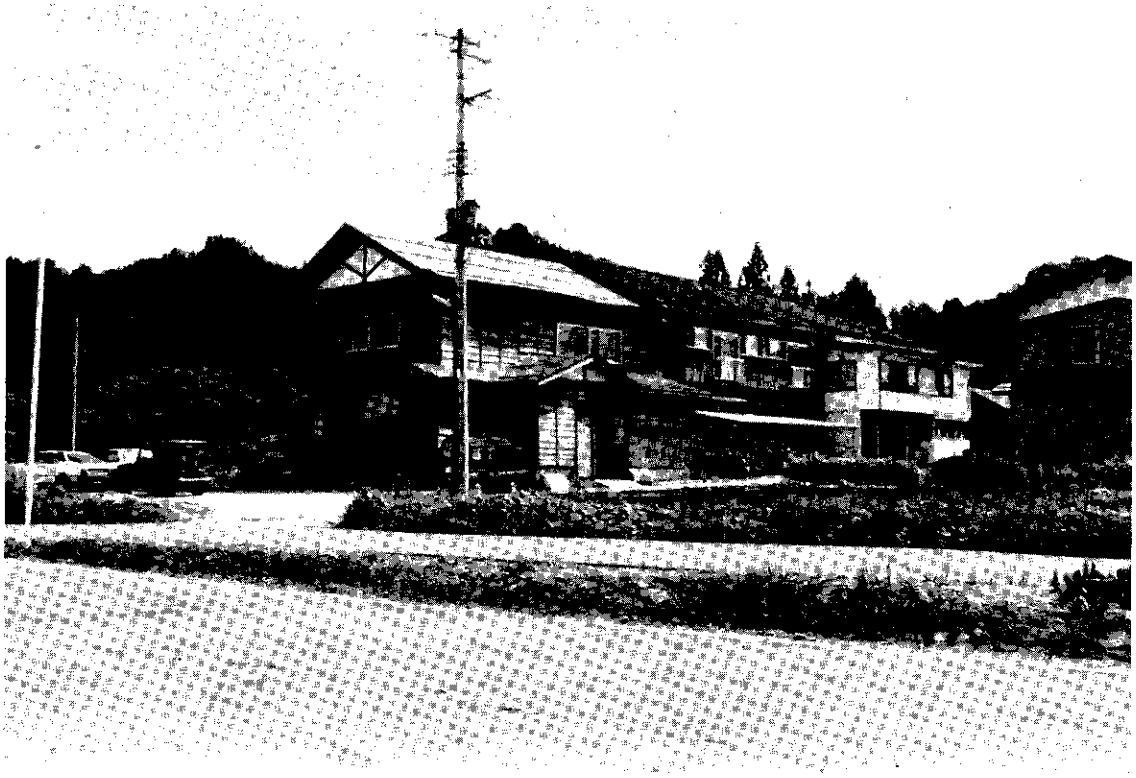
色々と申し述べたいこともあるがこれにて部落紹介とさせていただきたいと思う。



ブルドーザー作業の見物に集まった部落民

おじゃまします

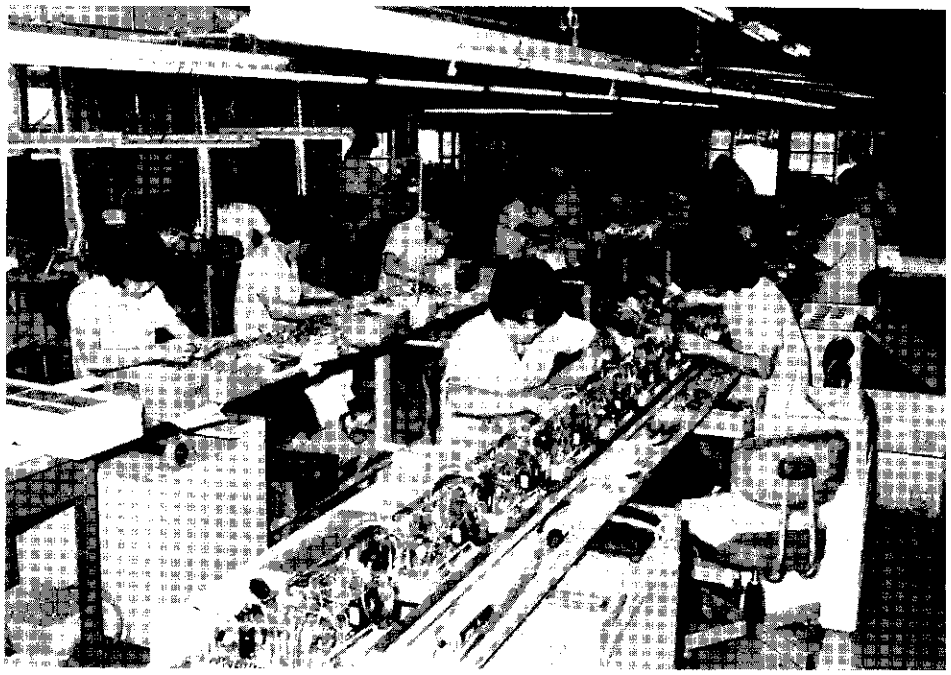
大和電建松代電子工場



今回は、松代町総合体育館のそばにある、大和電建松代電子工場をおじゃまします。（旧松代中学校寮）

工場長の小堺さん（蒲生出身）は、田舎ばなれした口調で（59年秋Uターン）説明してくれた。

従業員は33名（男子6名、女子27名）朝8時から、夕方5時10分までの勤務時間である。



二階にあがると、ハンダの匂いがした。

一人々の仕事の内容はちがう、基盤がベルトコンベアーに乗って流れている。

テレビの（14インチ型が主で他に5～6種ある）基盤づくりである。

基盤の部品は300種位あり、この工場では、150～180個の部品が手ぎわ良く、処理されている。

最後に、テストパターンがされ終了となり箱づめされる。

月製産台数は一万～一万五千台で、外注（内職）もあり、受注高は一定している。

仕事場には、音楽が流れ、手先の緊張とは裏腹に和やかな雰囲気である。

出勤率も9割台になってきて喜んでいます。冬場のトラックの出入が大変で、ブルに引かせることもありますと工場長は、完成した基盤を見ながら、私共に話された。

今年、巣立ったつばめであろうか、窓ごしの電線に仲良くならんでいた。

生涯学習の時代 4

充実した人生を送るために

家庭教育

学習意欲の基礎は家庭環境から

人はだれでも生涯にわたり、家庭や学校や社会といった場でいろいろなことを体験し、そこから多くのことを学びながら成長していきます。人格の形成にとって、どのような体験をし、どのような学習をするかが、きわめて大事なことは言うまでもありません。ですから、家庭、学校、社会のそれぞれの場が、人間性豊かな人格形成にふさわしい環境となることこそ、生涯学習の基本と言えましょう。

おざなりにできない乳幼児の家庭教育

最近、家庭教育の大切さが再認識されています。

かつて、生まれたばかりの赤ちゃんは目も見えなければ耳も聞こえないといわれていました。しかし、今では医学や心理学の研究がたいへん進み、人間は胎児の時から視力も聴力も働いていることが証明されています。また、乳幼児の時期の育ち方や体験が、その後の身体の発達や性格の形成などに重要な意味をもっていることも明らかになっています。「三つ子の魂百まで」が、科学的に裏づけられたというわけです。

このように考えてみると、家庭教育は、乳幼児の時期からおざなりにできないことが分かります。子供が人間性豊かな人格の持ち主となり、生涯にわたって学習しようとする意欲を持ち続けるかどうか――これは「家庭教育」のあり方によるところが大きいのです。

人間性豊かな人格形成を

人間には、子供から大人へと成長していくそれぞれの時期に、身につけておかなければならない課題があります。それらは、身体の発育、運動機能、知識、情緒などのさまざまな側面がありますが、人間性豊かな人格を形成するためには、次のような点に配慮することが重要だといわれています。

乳児期には、親や周囲の人々に対する信頼感を持つこと。幼児期には自立心を身につけること。少年期には活動性や自発性を発揮すること。青年期には、自分の態度や行動に一貫性を保てるように自己の確立を目指すこと。

子供が、このような課題を達成するためには、親がそれにふさわしい環境を作ってやることが大事です。そのためには、第一に、親が子供との触れ合いを多く持ち、子供に体験、思考、選択させる機会を豊富に持たせてやることです。そして第二に、親自身がひたむきに、しかも楽しく学び続けることです。そうすれば、子供も自然と親を見習って、生涯学習に取り組む姿勢を持つようになるでしょう。

家族で話し合おう 図解 交通安全・自転車編

飛び出す前に安全の確認を

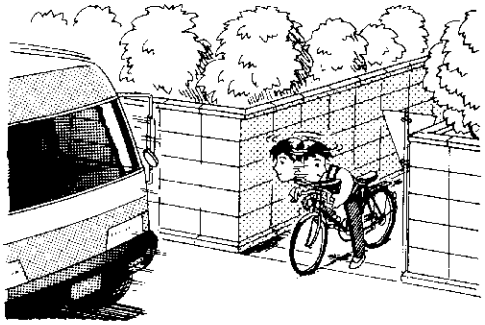
自転車の交通事故でいちばん多いのが〝飛び出し〟によるものです。

路地など狭い道から大きい通りに出るとき、自転車は小回りがきくので、つい左右の安全を確かめずにスイッと飛び出してしまいがちです。もし、そこへ車が走ってきたら……これでは、自転車の便利さがかえって〝災い〟を招いてしまっているといえないでしょうか。

事故を防ぐために、ぜひ次のことを守ってください。

「一時停止」の標識のあるところではもちろん、狭い道路から広い道路に出るときなどは、必ずいったん止まって左右の安全を確かめましょう。通り慣れたところや交通量の少ない道路でも、いきなり飛び出さないことです。

また、青信号になったからといって一気に飛び出すことも大変危険です。自分勝手に〝車が来ないから大丈夫だ〟などと決めつけないでください。あなたを守るのは、あなた自身です。必ず止まり、安全を確認する習慣を身につけましょう。



この標識のあるところでは必ず止まろう

第6回体育祭

8月4日 町民グランド

（雨天の場合総合体育館）

老若男女を問わず町民が一堂に会し、スポーツを通して健康、体力の維持増進と親睦をはかり、故里に愛着と生きがいをもち、「健康な明るい町づくり」をしようと、開催される町民体育祭も6回を数えました。みなさんのご理解とご協力により盛大な体育祭にしましょう。

第6回町民体育祭プログラム

午前8時集合　開会式 8時30分

晴天時種目	組数	時間	雨天時種目
ボール運びリレー	2	9:30 ～ 9:45	同じ
読書デートリレー	2	9:45 ～ 10:00	二人三脚リレー
がんばれ青春	1	10:00 ～ 10:10	1000M競歩
風船割り競争	1	10:10 ～ 10:20	同じ
綱引き競争（予選）		10:20 ～ 10:40	同じ
輪の中ボールリレー	1	10:40 ～ 10:55	同じ
幼児レース		10:55 ～ 11:00	同じ
ゲートボールリレー	2	11:00 ～ 11:15	ロボットボールリレー
障害物リレー	2	11:15 ～ 11:35	同じ
とおちゃんかあちゃん玉入れ競争	1	11:35 ～ 11:55	同じ
昼食		11:55 ～ 13:00	
アトラクション		13:00 ～ 13:20	同じ
小、中学生400MR（女子）	2	13:20 ～ 13:30	片足走リレー
小、中学生400MR（男子）	2	13:30 ～ 13:40	片足走リレー
大玉送り競争		13:40 ～ 13:55	同じ
キス・オブ・ファイアー	2	13:55 ～ 14:10	同じ
綱引き競争（決勝）		14:10 ～ 14:30	同じ
体育祭珍道中リレー	2	14:30 ～ 14:50	棒で仲よく
地区対抗リレー（女子）	1	14:50 ～ 15:00	……〉玉入れリレー
地区対抗リレー（男子）	1	15:00 ～ 15:15	……〉玉入れリレー

※ 時間については予定ですので早目に集合して下さい。

お忙しい時でもあり、暑さもきびしい時期ですが、スポーツで一日いい汗を流し楽しく過しましょう！

みなさんのご協力をお願い申し上げます。

大人の油断が事故を呼ぶ

今日も今夜も 火の用心

防災シリーズ㊳

花火を安全に

夏になると、夜は花火を楽しむお子さんも多いことでしょう。
しかし、ちょっと親が油断をすると事故につながるということを忘れないでください。
子供たちに夏の夜を楽しく安全に過ごさせるために、保護者や大人はどうすればよいかを考えてみましょう。

花火の事故 原料は火薬です

夏の夜、庭先での花火は蒸し暑さを一瞬忘れさせてくれるものです。しかし、家庭で手軽に扱っている花火も原料は「火薬」。ちょっと間違った扱い方をすれば、火事ややけどなど思わぬ事故を起こします。
花火で遊ぶときは必ず次のことに注意しましょう。

1 場所選び

空を飛んだり、火花が吹き出す花火で遊ぶときは、広い場所を選んでやりましょう。住宅の密集した場所だと火の粉が屋根に落ちたり、周りの板壁に飛んだりして火事になることがあります。
特に、近くに紙くずや枯木など燃えやすいものがないか、よく確かめてください。
また、風の強いときなどは、花火をやめましょう。

2 大人も一緒に

子供だけで花火をしていると、万一紙くずに火が燃え移っても適切な措置がとれなかったり、服に火が着いてやけどをすることがあります。花火をするときには必ず大人が付き添いましょう。

3 説明書きは必ず読む

花火に火をつける前には必ず説明書きを読みましょう。
花火には、それぞれ使い方があります。同じようなかっこうをしていても、手に持って楽しめるものと、地面に立てなければ危険なものがあります。
また、花火をほぐしたり、数本まとめて火をつけたりすると大変危険です。

4 近くに水の入ったバケツを置く

花火の燃えがらを確実に消すには水が一番です。そのために水をはったバケツを用意し、燃えつきた花火やマッチは必ずこの中に入れましょう。万一、紙くずに火が移ったとしても、この水をかければ直ちに消すことができます。

戸籍の窓口

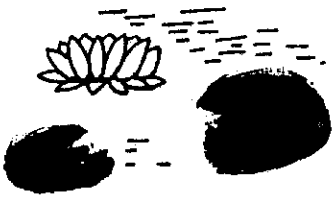
六月受付分

げんきなよい子に（誕生）

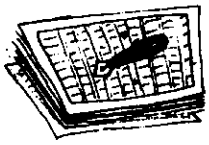
関谷祐介　父稔幸　母明子（長男・松代・藤野家）
秋山健太　父喜義　母ひとみ（長男・清水・かじや）
小堺由美　父健一郎　母つや子（二女・蓬平・坂口）
小堺　聰　父定男　母春美（二男・室野・幸之丞）

ご冥福を祈ります（死亡）

柳　ツジ　88歳　千年　松院
石田作次　56歳　苧島　上原
富澤フミ　77歳　太平　田中
牧田オキ　83歳　峠　小沢
宮澤トシ　81歳　下山　中子



文芸



しぶみ句会

卯の花の枝垂れて溢る用水路
消し炭は四隅に積まれ夏炉かな　静風

薬缶あり灰冷たくも夏炉かな
曲り行く谷間を埋めてうつぎ花　炳史

串餅を夏炉に焼きて山の宿
卯の花が今盛りなりバスの旅　立石

火の気なき夏炉なれども寄り所
卯の花が犇き合いて咲きにけり　淡水

卯の花を笠にこぼして田水引き
卯の花の匂う日蔭に座をとりぬ　紅茶

道果つや卯の花散りし休耕田
乗り替えてなお卯の花の峡続き　枯水

離村するうわさの藁屋紅卯つ木
方丈のもてなし嬉し大夏炉　六花

うつ木咲く谷の底より水の音
もて遊ぶ火箸のありて夏炉焚く　悠歩

足洗う水田に卯の花うつりけり
近よればまた美しき谷うつぎ　公明

城山へ行く道すがら花うつぎ
煮上がれば自在鉤上げ夏炉かな　一元

卯の花を手折りて森の小道出づ
山寺の夏炉人寄る事もなく　喜沙

卯の花のこぼるる小道亡母偲ぶ
白樺と卯の花匂うクラス会　八千代

花卯木散る牧場に牛放つ
炉のほとり涼風入れて昼寝かな　常仙

夕暮れは夏炉の煙こもらせて
山道に卯の花しだれ髪なぜる　美根

蒲生句会

山鳩の鳴く声背なに田草取る
山笠にうつぎの花をのせ帰る　月日

大寺の夏炉は灰の整えり
県境の深山に雪と水芭蕉　折人

卯の花や田水すくいつ鎌研げる
谷川の水嵩増せり青胡桃（くるみ）　耕山

湧き水にうつぎの花の二つ三つ
アサツキの玉を吊して梅雨晴間　鐵堂

咲き初めしうつぎ見上げる沢蛙
二条植え映る卯の花ゆるがせて　紫煙

明日飛ぶか燕身構え巣のふちに
この角を曲がれば葵背を競い　ふさ女

ひらひらと葛の奈落へ蝶墜ちぬ
吹き上ぐる谷風に蝶生まれしか　竜峰

文芸作品募集

次のように文芸作品を募集いたします。
ふるってご応募ください。

(一)募集部門ならびに点数
○詩　一編（四〇〇字詰原稿用紙一枚程度）
○短歌　五首以内（定連の方以外の方の作品歓迎）
○俳句　五句以内（しぶみ句会蒲生句会以外の方の作品歓迎）

(二)〆切　八月末日

(三)送付先　松代町役場、総務課、広報係

(四)ペンネームでも結構です。但し字名、本名、電話番号を書き添えて下さい。連絡の都合がありますので。

(五)編集の都合で逐次発表させていただく予定です。

園芸一口メモ

＝松代園芸愛好会＝

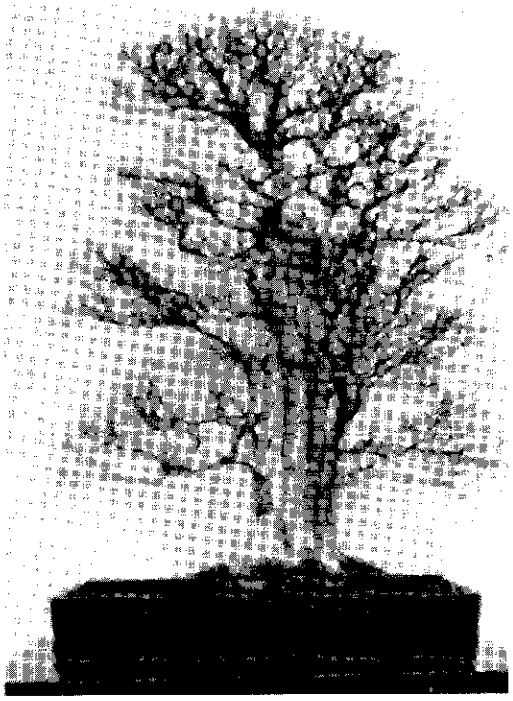
樹形のいろいろ

(11) 株立ち

一もとから何本もの幹が株になって立ち、それぞれの幹が独立した木のようにみえます。そして、長短太細、幹模様、遠近感、枝の繁閑にいたるまで、適当に調和し、林相の美をあらわす樹形です。

根張り

根本は太り、岩盤上で、八方根張り、大地をつかむような状態が望ましい。



幹

主幹は太く、丈も高く、威厳のあるものがよろしい。主幹の太さを見せるようにするためには、遠近法はもちろん考慮すべきですが、それにこだわらず、むしろ前を低くするのも一方、各幹の幹模様は共通するようにすれば、総合美が生れます。各幹が主幹を中心に一本の木のような感じに統一されるようにします。

枝

各幹の枝は外側に強く張出させます。主幹の枝は、樹冠より三段ぐらいは車枝でもよいが、それより下は交互につけます。

樹冠

勢力の集中している感じを出します。各幹は、主幹の枝と区別できる樹冠をもつこと。